

令和2年度第2回新潟市男女平等教育推進研究会概要

1 日 時 令和3年2月10日(水) 15:00～16:30

2 場 所 新潟市陸上競技場 第4会議室

3 出席者

(1) 委員(五十音順)

石山 友範	新潟市立新潟柳都中学校	教諭
稲垣 正子	市民生活部男女共同参画課	課長
片山 恒	新潟市立南中野山小学校	校長
佐藤 靖子	新潟市立西川中学校	校長
菅原 友和	新潟市立小針小学校	教諭
高橋 治子	新潟市立中之口東小学校	校長
中島 伸子	新潟大学大学院教育学研究科	教育実践開発専攻 准教授
長谷川 瑞	新潟市小中学校PTA連合会	副会長
樋口 玲子	にいがた女性会議	委員
本間 智絵	新潟市立女池小学校	教諭
保倉 裕治	新潟市立潟東中学校	教諭

(2) 事務局

山田 哲哉	学校支援課課長
三條 貴之	学校支援課総括指導主事
茂木 智弘	学校支援課指導主事

(3) 傍聴者

にいがた女性会議の方1名

4 会議内容

(1) 学校支援課長あいさつ

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策から始まり、GIGAスクール構想、小学校では外国語教育の拡大を含めた新学習指導要領の全面実施等、学校教育を取り巻く環境は大きく変化している。このような時代を生き抜く子どもたちにとって、今までの固定概念から脱却し、様々な見方や考え方を受け入れ、更新していく力が求められる。

昨年度は、委員の皆様をはじめ、たくさんの方々からご協力いただき、学習資料の改訂版を作成することができた。今年度の第1回の男女平等教育推進研究会では、改訂された学習資料の活用について、現場の先生方から実情をお聞きしたり、学校外から見た男女平等教育についてのご意見を委員の皆様からいただいたりした。また、相

庭会長からは、男女平等の意識や考え方の新しい知見や実際についてのお話も聞くことができた。

第2回の本研究会は、今年度の振り返りと共に、来年度から始まる「第4次新潟市男女共同参画行動計画」の重点項目の具体的な取組や令和時代における男女平等教育の在り方など、様々な視点からご意見いただきたい。

(2) 副会長あいさつ

固定概念からの脱却は、すぐにできるものではない。繰り返し指導していくことで、徐々に変化していくもので、粘り強い指導が必要である。本日も、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、様々な角度から、繰り返し指導していくための手掛かりとなる会になるよう進めていきたいと考えている。

(3) 児童生徒用「学習資料」について

今年度より、昨年度に改訂した「学習資料」の活用がスタートした。しかし、年度始めは、新型コロナウイルス感染症の流行で学校現場も混乱する時期でもあった。そのため、改訂された「学習資料」の活用について年間数回に渡り繰り返し校長会・教頭会で呼び掛けることで、周知・徹底を図った。

「第3次新潟市男女共同参画行動計画」及び例年の取組では、①「学習資料」を活用すること、②男女平等教育を年間指導計画に位置付けること、③保護者への啓発を行うことに取り組んできた。①②については、目標の100%を達成することができているが、③については、やや低い数値となっている。そのため、「第4次新潟市男女共同参画行動計画」では、③保護者への啓発を行うことを重点項目として取り組む。

そこで、本研究会では具体的な「学習資料」の取組の紹介と合わせて、保護者啓発の取組例や案等を検討していきたい。また、その取組例や案等を各学校へ紹介したいと考えているが、どのような時期に紹介するとよいかご意見いただきたい。

第4次新潟市男女共同参画行動計画について（学校教育・現場に関わる部分を抜粋）

○保育・学校教育における男女平等教育の推進（本指標の中心）

- 職場における男女共同参画についての研修支援
- メディアにおける男女の人権の尊重と男女共同参画の推進
- 市女性職員の管理職等への登用推進
- 性に関する正しい知識と理解についての教育・学習機会の充実
- セクシャル・ハラスメント等のハラスメントの防止
- DV防止の意識啓発の推進
- 自立支援策の充実
- 関係機関・民間支援団体との連携体制の強化と協働の推進
- DV対応と児童虐待対応との連携強化 等

意見

- ◇市女性職員の管理職等への登用推進について、市立小・中学校の校長・教頭における女性の割合を上げていくためには、ミドルリーダーである教務主任や研究主任、生徒指導主任等の女性の割合を上げていく必要がある。
- ◇子どもたちの前で何かをまとめたり、リーダー的な存在になったりする大人に女性が増えることで、子どもたちの意識改革につながるとよい。

「学習資料」の活用事例について

○小学3年生の実践事例

小学校中学年向けP2を提示した時、子どもたちが一番興味をもったのが、「ぼくは人形遊びが大すきなんだ」という部分。P3では、「男だから!!女だから!!」と父母に言われることはないが、祖父母に言われることはある。実際の授業では、これらをきっかけに話が膨らみ、みんなで考えることができた。P4の「わたしらしさ」については、前の内容から少し飛躍し過ぎて、思考が繋がらない部分があった。ここでは、教師の手助けや補助的な手立てが必要であった。保護者への啓発については、「あなたらしさを大切にしたい子どもの将来就きたい仕事」を読んでもらい、応援メッセージを書いてもらった。すると料理人や給食センターで料理をつくる仕事と書いた子どものメッセージに「どんな仕事でも応援するよ」、「ママ（男の子の母）は、料理が苦手なのでたくさんおいしい料理を作って食べさせてね」等、男女関係なく、保護者からの応援メッセージが多数寄せられた。

意見

- ◇先日、何気なく子どもが持ち帰ってきたものを読んでいる中に「学習資料」を見付けた。それを読んで子どもと話しているうちに、この研究会のことを思い出した。日常の中に入り込んで話せるととても素晴らしい「学習資料」だと思う。
- ◇子どもにとって身近な話題の事例は、自分事として考えるきっかけになる。反応の違いで、子どもたちそれぞれの意識の違いも確認でき、そこからみんなで考えることもできる。
- ◇保護者への啓発については、学習参観や懇談会などで取り上げてもらいたい。今年度は、コロナ禍で難しい部分もあったが、学校・子ども・保護者で一緒に考えることも一つの方法である。
- ◇保護者への啓発については、授業後に子どもの様子や保護者からのメッセージ等を通信で再度発信するもの効果的である。

○中学2年生の実践事例

中学生の内容は、より広い視点から考えていくことが大切である。そう考えた時、キャリア教育と関連付けて学習を進めていくと効果的である。実際に体験して学び、考えた後だからこそ、より自分事として捉えることができる。また、保護者への啓発については、最後のメッセージだけではなく、自分の将来を考えた時、人生の先輩として保護者にインタビューするなど、学習を進める中で、随時関わっていくことで、啓発にもつながっていく。

意見

- ◇小学校高学年，中学生等は，キャリア教育や道徳，特別活動等と関連付けて「学習資料」を活用していくと効果的である。実体験を伴いながら学んでいくと，より深い学びになる。
- ◇学校行事（生徒会活動，運動会，合唱祭等）のリーダーは，最近は男子と女子どちらが多い等はあるのか。地域や実態によって違いはある。伴奏のピアノを男の子がたくさんしていることもあれば，なんとなく伝統的に応援団長は男の子になっているようなこともある。このような実態も踏まえて，関連させながら意図的に指導をしていくことも大切である。
- ◇学習過程の中で保護者を巻き込みながら授業を展開していく保護者への啓発は大変効果的だ。
- ◇新潟市で取り組んでいるキャリアパスポートと関連させて取り組むこともよい。

保護者啓発の事例等の紹介時期について

- ◇年度始・年度末の時期は，多忙なためじっくり確認することができない。
 - ◇「学習資料」の活用も年度始・年度末にすることは少ない。
- 以上のことから，年度始の教育活動が落ち着いた春先に本研究会でいただいたご意見を基に，保護者への啓発例を紹介する。

(4) 男女平等教育推進に関する意見交換

- ◇「学習資料」P2の挿絵（女性が料理をして，男性がソファでお茶を飲んでいる）を見て，子どもたちはどのような反応を示したのか。学校内外での実態等は実際にどんな感じなのか。
- ◇小学校5年生では，家庭科の学習で「自分のできることは」という単元がある。その中で，家の中でどんな仕事があり，それを誰がしているのかという話になったが，母親ばかり家事をしているとか，父親が何もしないという話にはならなかった。
- ◇教職員の話の中には，女性にミドルリーダー的な仕事をお願いしようとする，家事に精一杯で厳しいと話す人もいる。
- ◇共稼ぎの夫婦における家事の役割分担についての調査結果はあるが，教職員同士の夫婦における家事の役割分担について興味深い。
- ◇「学習資料」が改訂されたこともあり，以前も取り組んだこともある，「学習資料」の実践発表会も数年後には，開催してもよいのかもしれない。

(5) 閉会のあいさつ・諸連絡

- 来年度の研究会では，今年度の取組の成果について示したり，第1回や本日はいただいた意見を基に検討したことを紹介したりしていきたい。
- 男女平等教育の議論を基に，キャリア教育や働き方改革等，様々な話へつながった。時代は，昭和・平成・令和の流れと共に，その様相も変化してきている。このような中，私たちも変化しながらよりよい社会を築いていくことが大切である。